

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

私の技術士資格登録年月日は、東日本大震災があった、あの平成23年3月11日でした。自宅に届いた登録証を見て『これは技術者として、まだまだやるべきことが沢山あるぞ！との試練のかなあ…』と重く受け止めた次第です。今年は難関の総合技術監理部門を奇跡的に突破しましたが、筆記試験で予想した題目は「原子力発電所被災時の避難路建設の大規模プロジェクト」で、これも東日本大震災関連であったことから、さらなる責任が重圧としてのしかかっています。

話は少々それ、先日、小学生の娘から、「原子力発電所は危険なのに、作って何かいいことあるの?」と聞かれ、「火力発電所より地球環境にやさしく、原発を建設することで建設中やその後の維持管理で多くの人に関われば、それだけ地元が潤うだろうし…」とまだ説明の途中だというのに、「そんな難しい言葉を並べてもわからないじゃない!」と家内に注意され、『難しい言葉、使ったか?』と不思議に思ったことがありました。家内には以前、私が担当した現場をたまたま見せた時には、「うわ～! おっかない! 危なおお～」と言われ『色々な工法から検討し、経済的で安全なものをしっかり選定しているのだから大丈夫なのに…』と内心ムツとしましたが、ふと冷静に考えると、『素人が見て怖がるような構築物は、安全ではあっても安心なものとは言えないのかもなあ…』と考え直したことがありました。よって私は、子供でも年配の方でも理解できる【土木の言葉】で、誠心誠意、丁寧に説明していかなければならないですし、安全であることはもちろんのこと、エンドユーザーに安心感を与えるような計画となるよう、日々の業務における技術提案など、気配りに配慮してまいりたいと考えている今日この頃でした…

## 山田 邦博 (やまだ くにひろ)

● 総監・建設部門 (道路)

### 勤務先

北海道土木設計株式会社  
道路部



→次号は、高橋正明さん (建設部門)

私は札幌市出身で平成3年に現在の会社に入社し、はや23年目になります。入社以来、主に北海道内の農村地域における環境対策や農業排水路の計画・設計等に携わるところから土木技術者としてのキャリアがスタートしました。当時は多方面の分野で環境関連の技術が求められたこともあり、私も農業分野で培った環境技術を通じて他分野の事業にも携わる機会に恵まれました。

その後、平成10年に技術士の試験資格を得たのですが、こうした多様な業務経歴の半面、農業分野の土台となる経験や知識が十分ではありませんでした。このため、受験期間中は経験豊富な先輩方々の指導を頂きながらじっくり勉強し、農業土木技術者として足場固めをする良い機会となりました。さらに振り返ると、技術士試験は私にとって「技術者根性」を再認識する機会でもありました。当時の試験は、午前・午後とも原稿用紙との格闘であり、時間内に紙面を埋めるだけでも物理的・体力的に厳しいものでしたが、先輩からは「原稿用紙は成果品であり、限られた時間でどれだけ良い成果が作れるか、すなわち、どれだけ仕事で粘れる技術者かが試されている」と指導され、まったく眼が開かれる思いで、普段の仕事に対する心がけも変わりました。技術士試験は本年度新たに改正されるようですが、後進指導の機会があれば、こうした本質的(?)なことも伝えていければと考えています。

技術士取得後は、分野や年代を超えた多くの技術士の方々との交流機会(主に酒席)を得て技術的、人間的に成長させて頂きました。まだまだ若輩ですが、北海道の農業基盤整備に少しでも貢献できるよう日々研鑽して参ります。ご縁がありましたら皆様どうぞご指導のほどよろしくお願い致します。

## 青山 裕俊 (あおやま ひろとし)

● 総監・農業部門 (農業土木)  
建設部門 (建設環境)

### 勤務先

株式会社 ドーコン  
環境事業本部 農業部



→次号は、笠井尚樹さん (建設部門)